

2022. 7. 10 (日) 使徒2:32~36

2:32 このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。

2:34 ダビデが天に上ったのではありません。彼自身こう言っています。『主は、私の主に言われた。あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。』

2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』

2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』

#### <説教>

およそ2000年前のペンテコステの日、誕生した初代キリスト教会で使徒ペテロが語った最初の説教から今日も聞きます。イエスの使徒たちまた弟子たちの上に聖霊が望み、彼らは聖霊に満たされ、聖霊が語らせてくださるままに他国のいろいろなことばで神の大きなみわざを語りました。それを見、聞いた人々は非常に驚き当惑し、「彼らは甘いぶどう酒酔っているのだ」と言って嘲る人たちもいました。(2:1-13)

そのとき使徒ペテロが他の11人の使徒たちとともに立って、人々に語りかけ、説教を始めました。ペテロはまず今彼らが見聞きしていることは、神が昔預言者ヨエルを通してお語りになっていたことを今自分たちになさったのだ、神が約束通りに聖霊を自分たちに注がれたのだとペテロはまず言いました。続けてペテロは「ナザレ人イエス」について話しました。この「ナザレ人イエス」がどういうお方なのか、それが今や一番大事なことです。神はこのイエスによってイスラエルの人々の間で力あるわざと不思議とするしを行い、彼らにこのイエスこそ神が人々に約束した救い主、キリストだということを「証言」なさいました。しかし人々はイエスを拒み、神の約束の救い主キリストだとは信じないで、十字架につけて殺しました。そのようにしてイスラエルの人々は神のイエスについての度重(たびかさ)なる「証言」を信じないで、逆に「イエスは神を冒瀆している」という律法学者や長老たちの言うことに惑わされ、イエスを十字架につけて殺しました。しかし神はそんな人々によって殺されたイエスを神はよみがえらせたと言いました。そして神がイエスをよみがえらせたこともまた神が昔彼らの父祖ダビデを預言者として用いて語らせたことであり、その預言のとおり神がなさったのだとペテロは教えたのです。(これが前回までに見て来たことです)

ダビデによって預言されたとおりに「このイエスを、神はよみがえらせました。」(32)とペテロは改めて断言し、「私たちはみな、そのことの証人です。」と続けました。それは復活のイエスがペテロたちに現れ、ご自分の復活の体をお見せになり、食事もし、御声を聞かせてくださったからでした。そのおかげでペテロたちも、聖書に書かれているとおりに本当に神がイエスをよみがえらせたと信じることができたのです。

だから、そのよみがえられて今生きておられるイエスが今何をなさったのかをペテロは続けて語りました。「ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。」(33)

〈今あなたがたが目にし、耳にしている〉ことは自分たちが酒を浴びているからではなく〈聖霊〉を注がれ浴びているからだと言います。そしてその〈聖霊を注いでくださった〉のは、復活して〈神の右に上げられたイエス〉である。そのイエスが〈約束された聖霊を御父から受けて、…注いでくださったのです〉とペテロはイエスのみわざを証言しました。最初に言ったように、ヨエルの預言のとおり神が聖霊を神のしもべはしために注がれたのですが、それは復活し、「天に昇り、全能の父なる神の右に座し」たもうイエスを通してお注ぎになったのです。イエスが弟子たちに〈約束された聖霊〉は、「父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊」(ヨハネ 14:26)、「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊」(ヨハネ 15:26)とイエスは言っておられました。その約束のとおりイエスが御父にとりなし、なされたのです。〈神の右〉とは〈御父〉と全く同じ権威と能力を意味します。それは「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」(マタイ 28:18)と言われたものです。約束どおりに〈聖霊を注いでくださった〉のもその権能によるものでした。

ところで、確かにペテロたちは10日前にイエスが天に上げられて行かれるのを目撃しました(1:9-11)。しかしどうしてそのイエスが〈神の右に上げられた〉とペテロたちに分かったのかと言えば、それも預言者ダビデの詩篇(110篇)からだったと考えられます(34-35)。〈ダビデが天に上ったのではありません〉というのはダビデが〈神の右に上げられた〉のではない、ということでしょう。「主は、私の主に言われた。」とある最初の「主」とは父なる神であり、「私の主」とはキリストのことでした。イエスがすでにパリサイ人たちとの問答の中でこの詩篇110篇によって「ダビデがキリストを主と呼んでいる」ことを指摘しておられました(マタイ 22:41-46)からそのイエスのことばをペテロたちは思い起こしたに違いありません。そのこともまた聖霊によることでした。そのようにダビデを通して神がお語りになったとおりに神はイエスを〈主ともキリストともされた〉のです。ダビデもモーセもエリヤも、その他のどれほど偉大な預言者でも天で父なる神の右の座に着いて人のためにとりなし聖霊を地上の人に遣わす権威は与えられていません。ただ私たちの罪のために十字架で死なれ復活して〈神の右に上げられたイエス〉だけが〈神と人との間の唯一の仲介者〉(1テモテ 2:5)なのです。〈約束された聖霊を御父から受けて…聖霊を注いでくださった〉イエスだけが私たちの〈主〉〈キリスト〉です。ダビデが預言したように、神がイエスを〈今や主ともキリストともされた〉のでした。

しかしペテロはまずイスラエルの民に、「このイエスを(先には「律法を持たない人々の手によって」と付け加えましたが、今度は単刀直入に)あなたがたは十字架につけたのです。」と言いました(36)。こうしてペテロは「自分たちは神を信じている、神の民だ」と自認し誇っていたイスラエルの民を神の前に立たせたのです。「あなたがたが信じているという神がイエスを〈主ともキリストとも〉されたこと」そして、しかしあなたがたは〈このイエスを〉信ぜず拒んで十字架で殺したのだ、そうやってあなたがたは神に逆らい敵対しているのだ、〈このことをはきりと知らなければなりません〉と聖霊に満たされ、聖霊の力によって、彼らを恐れず〈確信をもって、大胆に〉(29)指摘したのです。

それを聞いた人々もまた、聖霊の力によってその厳しいことば、指摘をへりくだって認め、受けいれ、イエスを〈主〉〈キリスト〉と信じ、悔い改め(つまり神に立ち帰り)、神に敵対していた罪を赦していただくほか道はないのです。